「不易」と「流行」臓・泥・鰓

~読書の秋、おすすめの 1 冊を紹介します!~

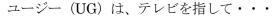
是非、中高生に読んでほしい作家 喜多川 泰さん。

ー度に喜多川さん本を3冊買って、子どもと交換しながら読んだこともあります。 その中から・・・「ソバニイルヨ」(幻冬舎)を紹介します。

~勉強が嫌いで、周囲の目ばかりを気にして日々過ごしている中学1年生の隼人。 さらに、些細な出来事がきっかけで、仲の良かった友達との関係がもつれ、孤立す ることになってしまいます。

ある日、自分の部屋に帰ると、そこには見慣れぬ大きな物体が・・・それは、長期間海外出張で不在になる父親が残していった・・・**AIロボット「UG」**でした。





「テレビの中でも、ミンナヤッテル。楽しければ、他人がキズツイテモ平気。人間のシッパイを笑う。 ミスをした人間たちを追い詰める。ソレを見ている人たちもモットヤレって思ッテル・・・ みんな・・・「**アイ**」が足りない。

みんな、自分が喜ぶコト、自分が怒りをブツケルトコ、自分が楽しいコト大事。「**アイ**」がない。 自分ダケが大事。だから平気な顔してイラレル。」

「ホントにそうだよ。みんな自分のことしか考えてない!」

隼人は、学校で孤立している怒りをぶつけるように声を荒げた。

「デモ、隼人も同じだったデショ。自分の楽しいノタメナラ、誰かを悲しませるウソをついても平気」「えっ・・・」

隼人は固まった。

「ビリヤード楽しんダケド。真由美(隼人の母)ニハ『塾』ってウソついた」

「なんで知ってんの?」

「ユージー、ワカル。真由美も隼人がウソついたのワカッテル」

「母さんにバラしたの?」

「ユージー、ナニモ言ってない。真由美 自分でキヅク。塾じゃないコトクライ、誰デモワカル」 隼人は、体が熱くなり変な汗が噴き出すのが分かった。

「ホラ、**隼人モ、隼人ノ『タノシイ』が、真由美の『カナシイ』にナッテタけど、平気ダッタ。**」 隼人はその言葉を聞いて、怒る気力もなくした。

これまでの隼人の『楽しい』は誰かの犠牲の上になりたっているものだったのかもしれない。

自分の『楽しい』の陰に隠れて、「いやな思い」をしていた人がいるかもしれない。今の自分のように・・・。

やがて、「UG」は、隼人にとってかけがえのない相棒?家族?弟?兄?親友?父?「ユージー」となり・・・ 隼人は、考え方や視点、行動が少しずつ変わっていきます。

しかし、相棒、ユージーと「お別れ」の日がやってきました。

隼人は、ただユージーを見つめて涙を流していた。言葉に詰まった隼人の代わりに、ユージーが話した。

「アリガトウ隼人。ユージーは楽しカッタ。ホント。隼人に会えて幸せダッタ。」

隼人は首を横に振った。

「俺のほうこそ、ユージーに会えてよかった。もしユージーに会えなかったら、俺弱くて、何からも逃げて、それでも逃げてるなんて気づいていない、カッコ悪い奴のままだった。それに、わからないまま人が傷つくことを平気でしていたと思う。」

ユージーが隼人に伝えた・・・・「**アイ**」って何?隼人の成長のきっかけは?ユージ―って? 気になった人、是非読んでみてください。

